

造成工事、来月開始

谷地
ツ団
三工業

エム・ケー 行政の助成が魅力

エム・ケー(小林勤社長、東京都日野市)、静岡県三島市、三島市三ツ谷地区が一体となって開発を進める「三ツ谷工業団地建設計画」(三島市)は順調に推移し、9月にも造成工事がスタートする。2年後の2018年9月に竣工する見通し

で、首都圏からのアクセスの良さ、豊富な労働力、手厚い行政の助成など、多様なメリットを有している。

三ツ谷工業団地の分譲面積は11万4600平方メートル、計8区画。食品関係など既に3社が手を挙げている。

小林社長(74)は「品川駅から38分、東京駅から44分、新幹線の三島駅があり、利便性は高い」と評価。国

道1号、東名高速道路、新東名高速道路にも近く、14年2月には東駿河湾環状道路(無料自動車専用道路)が開通、伊豆方面へのアクセスが便利になった。「三島は雪が降らず陸運向き。地理的にも物流に適している」とPRする。

また、静岡県の「内陸フロンティア構想」の推進区域に指定されており、行政による手厚いサポートも魅



「三島市の発展に寄与したい」と小林社長

力だ。

三島市からは、物流事業者の場合①千平方メートル以上の用地取得②対象施設に従業員10人以上が勤務③県内全体で雇用が増加——を満たせば、用地取得額の30%もしくは3億円を上限に助成を受けられる。

静岡県は①設備投資額10億円以上の県内での雇用が増加②物流総合効率化法に定める設備——を条件に、投資額の7%もしくは5億円を上限に助成する。

労働人口は、周辺自治体を入れて50万人規模。最低賃金は、神奈川県の時給905円と比べると、静岡県は時給783円と100円以上低い。高台に立地し、防災拠点として機能するため、BCP(事業継続計画)対策にもなる。

エム・ケーが積み重ねてきた経験と行政とのスムーズな連携も、計画をスケジュール通りに進める上での大きな強みとなっている。

2日に行われた三ツ谷工業団地土地地区画整理組合の第1回総会で、三島市の豊岡武士市長は「豊富な実績を持つエム・ケーがいなかったら計画は実現しなかった」と謝意を示し、地域の発展に期待を寄せた。

小林氏は「三島市は文化と歴史がある都市で、今後の経済の伸長も期待されている。我々の開発事業で地域の発展に寄与できればうれしい」と話した。

(高橋朋宏)